

2014年7月30日

出入国管理政策懇談会の皆様へ

31日に出席できなくて真に残念ですが、その代わり、「外国人労働者の受け入れに関する検討について」のレポートに意見を述べさせていただきたいです：

レポートに書かれていることに概ね賛成ですが、付け加えたい件は次の通りです：

1. 5ページ イ「優遇措置の見直し」：家事使用人の帯同を増やすことについては賛成ですが、ILOの家事労働者条約の批准を考慮した上での受け入れがより良いと思われます。そうすれば日本をグローバルスタンダード並みに引き上げることにもなり、労働者の中で一番立場が弱い家事労働者への搾取の未然防止にもなります。
2. 9ページ意見ウ「外国人労働者を受け入れた場合の社会的コストの問題を考えるべきとの意見」：将来、社会福祉や社会的コストになるから、外国人を受け入れることを再検討した方がいいという指摘がありますが、外国人移住者が働いていて社会貢献もしていて、税金も払っているのに、社会福祉を提供しないのはおかしいです。教育と社会安全性は密接に関係しています。移住者に質の高い教育（日本語も含めて）を提供すれば、治安も問題ないはずです。移住者を受け入れて、放置すれば、問題になります。受け入れて、教育を提供して、サービスを提供すれば、すなわち、彼らの人的資本に投資すれば、社会への利益がコストを大幅に上回るはずです。人は単純労働の分野に属しているから犯行に走りやすいのではなく、教育の機会が与えられていないことや社会の中で出世ができないからそうなります。
3. 介護分野の外国人の受入れについて：
12ページ、③意見のポイント：
日本人看護師や介護士の労働条件を上げれば（労働時間帯の柔軟性、当番の選択性や給料の向上など）日本人もこの職に戻るし、新しくこの分野に入ると思います。それでも、将来、人手不足は発生するし、外国の看護師、介護士は不可欠になるでしょう。集中した日本語の教育が彼らの職場と社会への統合に重要になります。この分野の労働条件を引きあげれば、外国人も日本人も同じように魅力を感じるはずです。質の高い人材の確保が保証できます。

以上です。

ロバーツ・グレンダ

早稲田大学大学院

アジア太平洋研究科

教授